

平成15年度 再評価対象事業一覧表

整理番号	事業計画								再評価の理由	再評価の視点										対応方針(原案)	前回審議年度			
	事業名	施設名	事業主体	事業箇所	事業概要		工期			事業費		事業進捗の状況及び見込み					関連事業の状況	社会経済情勢の変化	地元等の意向			費用対効果分析		コスト削減及び代替案立案の可能性の有無
							着工	完了		(億円)	(億円)	前年度事業費	進捗率	用地進捗率	H15年度事業費	H16年度以降事業費						B/C	分析基礎の要因の変化	
					上段:当初	下段:変更	上段:当初	下段:変更		(億円)	(%)	(%)	(億円)	(億円)	当初	現行								
農林部																								
農村整備課																								
農整-1	水田農業経営確立排水対策特別事業	黒崎	県	諫早市	受益面積 104ha 排水路 2,600m 制水門 5箇所	H10	H16	12.0	事業採択後5年経過	5.6	53	85	1.6	3.5	かんがい排水小野東地区H16、排水対策特別赤崎地区H16、梅崎地区H17完了予定	農家の経営規模や認定農業者数は拡大する傾向にあり、農地流動化と経営規模の拡大が進んでいる。	受益農家、地域住民、諫早市ともに早期完成を望んでいる。	-	1.08	-	ブロックの裏込材に再生クラッシュランを使用し、資源の有効活用を図る。	継続		
農整-2	畑地帯総合整備事業(一般型)	只狒	県	富江町	受益面積 474ha 排水路 13,970m 農道 5,485m	H5	H15	24.0	再評価後5年経過	23.3	85	92	1.0	3.0	-	作付面積、経営規模および農業粗生産額は増加傾向にあり、農業は町の基幹産業として重要な位置を占めている。	受益農家、富江町ともに早期完成を望んでいる。	-	1.05	-	路盤材に再生クラッシュランを使用するほか、掘削廃土を町内のほ場整備盛土材として活用。	継続	H10	
農整-3	一般農道整備事業(半島基幹)	白似田	県	西彼町	受益面積 91ha 道路工 2,010m	H10	H16	6.0	事業採択後5年経過	1.7	29	91	1.0	3.1	-	いちごやアスパラ等の施設野菜や果樹栽培が盛んであり、認定農業者も非常に増加している。	受益農家、西彼町ともに早期完成を望んでいる。	-	1.14	-	路盤材に再生クラッシュランを使用し、資源の有効活用を図る。	継続		
農整-4	一般農道整備事業(広域連携)	板橋	県	吉井町	受益面積 111ha 道路工 917m	H10	H17	7.0	事業採択後5年経過	2.6	38	96	0.6	3.7	国営農地再編北松地区H14完了、広域農道北松南部地区H16完了予定	施設園芸に加えアスパラ、ブロッコリーの栽培が始まり、地域農業の活性化が図られている。	受益農家、吉井町ともに早期完成を望んでいる。	-	1.05	-	路盤材に再生クラッシュランを使用するほか、掘削廃土を他事業の盛土材として活用。	継続		
農整-5	中山間地域総合整備事業(広域連携型)	下県	県	厳原町他2町	受益面積 104ha 道路工 7,917m 区画整理 36ha	H10	H16	35.0	事業採択後5年経過	17.5	81	90	2.0	2.1	農林地一体開発パイロットH11、山村振興等農林漁業等特別対策H12完了	1戸あたり経営規模は僅かながら増加しており、農業経営に対する意識は高まっている。	受益農家、関係3町ともに早期完成を望んでいる。	-	1.35	-	路盤材に再生クラッシュランを使用するほか、掘削廃土をほ場整理の客土材として活用。	継続		
農整-6	基盤整備促進事業(担い手育成型)	多比良	町	国見町	区画整理 25ha	H9	H12	4.5	計画変更後5年経過	7.1	92	-	0.4	0.2	-	農業就業人口比率が高く、経営規模は増加傾向にあり、農業は町の基幹産業として重要な位置を占めている。	受益農家、国見町ともに早期完成を望んでいる。	事業費所得指数67>基準指数27	-	-	路盤材に再生クラッシュランを使用するほか、掘削廃土材による石積の施工。	継続		
林務課																								
林務-1	森林整備事業	森林基幹道飼所舟志線	県	上県町 上対馬町	延長 14,600m 幅員 5.0m 利用区域森林面積1,192ha	S62	H18	47.4	再評価後5年経過	41.5	76.3	-	2.4	10.5	-	林道の供用区間では、森林整備が進んでいる。園指定の天然記念物であるツシママメコノの生息地であり、工事については関係機関と工法等協議しながら、進められている。事業実施の結果、地形が急峻なため岩盤の掘削量が増加、また、想定したよりも亀裂が発達した岩盤が露出し、通行車両の安全確保のため、法面保護工の経費が増加し、全体事業費の増額となった。	林業生産性の向上や輸送力が増強され、林業従事者の定住促進が図られるので地元及び町は早急な完成を望んでいる。	-	1.43	-	○コスト削減と早期完成のために、路線設計の経費、林道線形を変更しトンネル1箇所を廃止し、また、道路曲線部の幅員を最高1m低減。 ○代替案の可能性は無い。	継続	H10	
林務-2	水無川地区火山地域防災機能強化総合治山事業	林地荒廃防止施設	県	島原市 深江町	治山ダム工・導流堤工 流路工・実播工 森林整備	H4	H17	130.0	再評価後5年経過	90.6	70.0	95.2	7.0	32.4	当地区の上流において、長崎森林管理署が、航空実播工を実施しており、下流においても、国交省が砂防ダムを建設中である。	下流砂防事業の整備が並行して実施されており、安全性は向上しているが、土石流の発生源である上流域の荒廃は依然として進んでいる。	早期の概成を要望し、工事への協力も良好である。	-	1.74	かさ上げされた(三角地帯)安中地区には、新たに住宅や畑作が営まれるようになり、今後も受益対象者の増加が見込まれる。	コスト削減への取り組みは、進んでいる。土石流抑制のための治山ダムの建設が主体であり、代替案立案の可能性は無い。	継続	H10	

林務 一3	平山地区地すべり防 止事業	地すべり防止施設	県	吉井町	排土工・杭打工 地下水排除工 浸透防止工	S38	H.15	68.6	再評価後 5年経過	51.3	93.8	100	0.5	2.9	—	事業の概成と併せて河川の 改修、橋梁の設置等周辺の 他の公共事業の本格的実施 が予定されている。 ●①全体事業費の減、②施 工期間の増 理由：①全体計画の見直し により、地すべりブロック内へ の表面水の浸透を防止する工 法を採用したため。 ②地すべりブロックが64haに も及ぶことや、細ブロックした 活動形態をなしたことにより、 経年の調査結果を踏まえた対 策工が必要となったため。	早期の概成を要 望し、工事への 協力も良好であ る。	—	1.26	コスト削減により事業 費が減少した	経済性を考慮し つつ効率的な対 策工に事業計画 を見直しコスト縮 減を図った。	継続	H10
林務 一4	赤木地区地すべり防 止事業	地すべり防止施設	県	松浦市	アンカー工・杭打工 地下水排除工	H10	H.14	4.5	事業採択後 5年経過	4.6	70.5	—	0.2	1.7	—	県道の改良が進み交通量が 増加しており、地すべり防止 施設の重要性は、高まっている。 平成14年度の集中豪雨により 新たな地すべりブロックが形 成されたことにより、事業延長 になる。	早期の概成を要 望し、工事への 協力も良好であ る。	—	2.92	防止区域内の定住人 口が僅かであるが増 加している。	コスト削減への 取り組みは、進 んでいる。地域 への影響は大き く地すべり対策と して実施が必要 。	継続	
林務 一5	森林整備事業	森林管理道 永尾小樽線	町	波佐見町 永尾郷	幅員 W=4.0m 延長 L=3,000m 利用区域森林面積 77ha	H10	H20	4.0	事業採択後 5年経過	1.7	42.2	—	0.3	2.0	—	森林・林業情勢等について は、着手時に比べて大きな変 化はないが、林業を取り巻く 環境は木料価格の長期低迷 等から悪化し、十分な森林整 備が行われない人工林が多く ある。今後、適切な森林施業 の効率的な実施・作業現場へ のアクセスの改善などを図り、 安定的な林業経営を確立する ための林道の整備が不可欠と なっている。	林道永尾小樽線 開設推進協議会 を設置し早期完 成のための取り 組みを行っている。 森林管理道の 整備は、森林 の有する機能発 揮や維持管理の ため、計画的に 推進する。	—	1.92	—	森林区域内の森 林管理道であり、 現段階では他 の施設での代 替は困難であ る。	継続	
林務 一6	森林整備事業	森林管理道 福崎線	町	上五島町 統浜ノ浦	幅員 W=4.0m 延長 L=5,000m 利用区域森林面積 206ha	H4	H14	5.0	再評価後 5年経過	5.8	88.0	—	0.5	0.3	—	前回再評価時期と情勢の変 化はないが、本町における林 家の高齢化、後継者不足は 深刻でこれら労働不足を解消 し、森林を適正に管理し林業 の活性化を図るためには林道 の整備は是非とも必要であ る。 西海園定公園内に位置し、自然 景観に配慮した施工を行う 必要があり、地形急峻である ことから、法面保護工及びよ う壁工の経費が増加した。また 切土について、軟岩Ⅰ程度を 想定していたが、大部分が軟 岩Ⅱとなったため、切土工の 経費が増加し全体事業費が 増額となった。	受益者からの早 期完成の要望が 強く、町としても 積極的に取り組 んでいる。	—	1.49	—	既設道路から離 れた森林内の森 林管理道であり、 他の施設での 代替は困難で ある。	継続	H10

水産部																							
水産基盤計画課																							
水 計-1	漁港環境整備事業	長崎漁港	県	長崎市	センターゾーン A=33,850㎡ 三重1 A=11,700㎡ 三重2 A=28,000㎡ 沖平1 A=4,150㎡ 沖平2 A=6,900㎡ (沖平3 A=33,000㎡)	S63	H17	14.5	再評価後 5年経過	8.3	62	100	0.6	4.5	水産基盤整備事業(国際マリン都市の形成を目指す整備中。)	水産資源の減少等による漁業生産量、利用漁船の減少、地区全体の人口については、背後地の整備により増加。沖平3は周辺の事業計画の変更により、今計画からは削除。	施設の完成による利便性の向上を要望。	—	1.22	県内、市内スポーツ施設が乏しく、近距離で少年等が利用できる施設の整備が望まれている。	沖平3地区の計画見直しにより15年以上続いていた事業の完成を図る。	見直し	H10
					S63	H19	13.4																
水 計-2	漁業集落環境整備事業	阿翁浦漁港	町	鹿島町	集落道607m 防災安全施設10箇所 用地整備14,600㎡ 緑地広場1式 水産飲雑用水1,300m 集落排水施設1式 雨水排水施設340m	H5	H16	25.8	再評価後 5年経過	15.9	65	100	6.3	2.2	水産基盤整備事業	養殖業の展開により生産額は増加している。それに伴い最近では、UIJターン者も増加している。	水域環境の向上及び快適な生活環境の創出のため早期完成を要望。	—	1.28	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(暫定版)による(H14.3)	—	継続	H10
					H5	H16	24.4																
水 計-3	漁業集落環境整備事業	神の浦漁港	町	宇久町	集落道3,380m 雨水排水路710m 防災安全施設1式 (集落排水施設1式)	H10	H17	12.5	漁業情勢の急激な変化による計画の見直し。 (集落排水の廃止)	4.2	66	60	0.2	2.0	水産基盤整備事業	磯焼け等による周辺海域の漁業資源の減少に伴い、漁獲量及び採貝量が減少している。後継者不足と漁業従事者の高齢化により、経営も厳しい状況下であり、世帯収入が減少し、排水施設への加入意志が低くなった。また近年の町財政により計画期間を2年間延長する。	排水施設整備については、加入意向者数の減少により計画を見直すべきとの意向。安全な生活環境創出のため他施設は完成を要望。	1.13	1.09	集落排水施設整備の廃止による効果項目の減少	下水道整備については、費用負担がより少ない方法を検討していく。	見直し	H12
					H10	H19	6.4																
水 計-4	漁業集落環境整備事業	阿連漁港	町	巖原町	集落道290m 水産飲雑用水施設1式 処理場1式 雨水排水路1,040m 排水管路3,420m 緑地広場2,630㎡ 防火水槽3箇所	H11	H15	9.6	事業採択後 5年経過	7.5	69	100	2.3	1.1	水産基盤整備事業	利用漁船数は横ばいの状況である。採貝量は減少しているため養殖業への転換を実施している。近年の町財政により計画期間が1年延長されたが、集落排水施設は今年度供用開始を予定している。	漁業水域の水質向上及び生活環境の改善を図るため早期完成を要望。	—	1.03	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(暫定版)による(H14.3)	—	継続	H10
					H11	H16	10.9																
水 計-5	農林漁業用揮発油税財源身替漁港関連道整備事業	早福漁港	市	平戸市	道路L=2500m	H11	H20	20.0	事業採択後 5年経過	10.2	51	100	4.0	5.8	水産基盤整備事業	水産資源の減少による漁業生産額の減少はあるものの、五島沖への釣り客等が当漁港を利用しているため、道路利用者は微増である。	水産物の流通改善及び漁村の活性化のため早期完成を要望。	1.24	1.21	水産基盤整備事業費用対効果分析のガイドライン(暫定版)による(H14.3)	—	継続	H10

都市-8	都市公園事業	金比羅公園	市	長崎市	面積135.0ha ハタ揚げ広場、多目的広場、保存緑地等	S47 H12 20.7	再評価後5年経過	9.7	47	80	0.4	10.6	別途取付道路整備事業において、用地交渉が難航し、事業進捗が悪い。	市民が利用する施設として都市計画決定を行い、期待が高い。	早期完成が待ち望まれている。	-	1.52	-	将来の街づくりを考える中で、都市計画決定した施設であり、代替案は無い。	継続	H10
都市-9	土地区画整理事業	辻の尾	市	松浦市	A=17.9ha 建物移転 83戸	H元 H12 58.0	再評価後5年経過	46.5	79	-	3.4	9.3	都市計画道路浦中央線H15完成予定	-	早期完了を要望	-	1.74	西九州道路建設計画の追加	盛土計画の変更によるコスト縮減代替案の可能性無し	継続	H10
都市-10	土地区画整理事業	高田南	町	長与町	A=49.8ha 建物移転 257戸	S58 H20 234.0	再評価後5年経過	129.9	54	-	11.0	98.6	都市計画道路赤迫線 H14完成 都市計画道路高田線 H12完成	平成14年度に長崎・ホルト大学、長崎港等技術専門校の開校等にも対応した道路計画の変更を行った	早期完了を要望	-	1.88	道路計画の変更	区画整理計画の大幅な見直し代替案の可能性無し	継続	H10
都市-11	街路事業	小ヶ倉蜜茶屋線	市	長崎市	延長2960m、幅員13m 市内中心部の混雑緩和と斜面市街地における生活道路、緊急避難道路として位置づけられ、国道34号と国道324号、さらに戸町バイパスから国道499号へと結ぶ補助幹線道路である。	S63 H4 23.7	事業採択後10年経過	130.3	80	92	6.0	27.4	九州横断自動車道・田上ICはH15完成予定	全延長2,960mのうち矢の平工区740mはH11に完了	早期完成が望まれている	-	1.94	-	再生砕石、再生アスファルト合材の利用によるコスト縮減代替案の可能性無し	継続	
都市-12	街路事業	出島・南山手地区	市	長崎市	延長1040m、幅員11～15m 長崎市の観光地を代表する出島・南山手地区の居留地文化軸として歴史的地区環境整備街路事業で整備しており、中心商業地と歴史的地区を結ぶ幹線として必要な補助幹線道路である。	S58 H15 22.0	再評価後5年経過	23.5	33	28	2.5	46.0	「斜面市街地再生事業(十善寺地区密集住宅市街地整備促進事業)」が実施中	地区内の街路2路線のうち片瀬町松ヶ枝町線(大溝工区)は進捗率92%(H14末)	早期完成が望まれている	1.8	2.05	H12より「新地町稲田町線」に着手したため当該線を追加	再生砕石、再生アスファルト合材の利用によるコスト縮減代替案の可能性無し	継続	H10
都市-13	街路事業	久原堀ノ尾線	市	大村市	延長1300m、幅員16m 一般国道34号のバイパスとして、交通の円滑化を図り、健全な市街地の形成を誘導する。	H5 H15 66.1	事業採択後10年経過	56.6	79	88	3.6	11.2	久原堀ノ尾線の久原工区(県施行区間 850m)はH14供用開始	市施行区間1,300mのうち三城工区680mはH12に完了	早期完了	-	3.03	-	再生砕石、再生アスファルト合材の利用によるコスト縮減代替案の可能性無し	継続	
都市-14	公共下水道事業	郷ノ浦町公共下水道事業	町	郷ノ浦町	計画区域 251.0ha 計画人口 7,300人 計画汚水量(日最大) 3,630口/日	H6 H24 80.6	事業採択後10年経過	27.9	35	100	8.0	44.7	計画区域251.0haの内、平成10年度に北部処理区58haは整備完了。平成11年度から中央処理区を整備中である。	生活環境の改善や公共用水域の水質保全が急務である。	推進指向	-	1.20	費用便益比が1以上であることから、本町の下水道事業は効果があると評価できる。	-	継続	
都市-15	都市下水路事業	中里都市下水路	市	佐世保市	流域面積 77ha 延長 1,300m 幅員2.0～5.6m	H6 H11 5	事業採択後10年経過	6.9	92.6	97.4	0.05	0.5	-	近年浸水被害が頻発し浸水防除に対して注目されている。生命の保全は急務であると考えられる。	推進指向	-	1.27	費用便益比が1以上であることから、市の下水道事業は効果があると評価できる。	-	継続	
道路建設課																					
道建-1	道路改築事業	一般国道382号 とう坡バイパス	県	上県町	延長=4.700m幅員=5.5(7.0)m 狹隘区間を解消し、交通の安全を図る。	H6 H15 60	事業採択後10年経過	29.4	49	98	12	18.6	-	平成16年3月1日より「対馬市」として市制がスタートする。	国道382号整備促進委員会から整備促進の要望	-	2.63	一部区間の供用	道路幅員の縮小	継続	
道建-2	道路改築事業	主要地方道 蔽原豆敷美津島線 久田南工区	県	蔽原町	延長=2.420m 幅員=5.5(7.0)m 狹隘区間を解消し、交通の安全を図る。	H6 H15 30	事業採択後10年経過	16.2	54	96	4.8	9.0	-	H14.12月の、対馬クリーンセンター(ゴミ処理場)の稼働により、大型車の交通量が増加している。	地元から早期完成が望まれている。	-	2.01	一部区間の供用	道路幅員の縮小	継続	

港湾課																							
港湾 -1	長崎港改修事業	女神地区 臨港道路整備	県	長崎市	神ノ島・皇后地区の物流機能の 支援拡充を図るため、臨港道路 延長1,600mを整備する。 また、18年度には、女神大橋の 供用にあわせて、神の島地区迄 の暫定供用を予定している。	H6	H19	43	事業採択後 10年経過	17.5	41	23	6.9	18.6	女神大橋が整備 中である。	交通アクセス向上に対する要請 は強い。	立地企業及び地 元住民からも早 期完成を望む声 が強い。	—	5.07	交通需要予測値8,232 台	工業団地や地域 住民にとって利 用しやすい最適 ルートの選定を 行っている。	継続	
港湾 -2	久山港改修事業	久山地区 国内物流ターミナル整 備	県	諫早市	県央地区における国内物流ターミ ナル施設として、岸壁(-5.5m) 延 長200m及びその関連施設を整備 し、建設資材・金属機械製品等の 取り扱いを図る。	H6	H19	39	事業採択後 10年経過	19.3	50	—	2.7	17	背後埋立を市に おいて実施中 である。	建設資材等の取 扱いを予定し ていたが、新た に金属関連の 企業から貨物取 扱いの要望が あがっている。	地元企業等より 整備の早期完 成が望まれている。	—	1.69	年間取扱貨物量374 千t	諫早市の背後埋 立計画と連携し て、最適な形状・ 配置としている。	継続	
港湾 -3	小茂田港改修事業	小茂田地区 小型船たまり整備	県	厳原町	漁船の係留場所の確保及び陸揚・ 準備作業の効率化のため、防波 堤 延長588m、物揚場(-3.0m) 延長180m、浮桟橋1基及びその 関連施設を整備する。 H15年度からは、防波堤(沖)、道 路以外の施設について供用を開始 している。	S55	H14	37.6	再評価後 5年経過	37.6	73	—	1.8	11.6	—	地元より安全な 出入港に対す る危惧が指摘 され、港口の 静穏度を再検討 した結果、防波 堤(沖)150mを 取り込んだため 工期を延長する。	漁船の安全な 出入港のための 防波堤整備の 早期完成が望 まれている。	—	1.48	漁船隻数101隻	防波堤(沖)につ いては、港内静 穏度検定の結 果、最適な位置 での施工として いる。	見直し	H10
港湾 -4	相の浦港改修事業	相の浦地区 小型船たまり整備	県	奈留町	漁船の係留場所の確保及び陸揚・ 準備作業の効率化を確保する ため、防波堤 延長230m、物揚 場(-3.0m) 延長100m、船揚場 延長30m及びその関連施設を整 備する。	H6	H16	16	事業採択後 10年経過	11.4	71	—	1	3.6	—	港内他地区の 早期整備の要 求を受け、その 対応に伴って、 工期を延長する。	漁船の安全な 係留と効率的な 漁業活動を求め る方々が多く、 整備の早期完 成が望まれている。	—	1.20	漁船隻数52隻	港内での拠点 整備を図っている。	継続	
住																							
住宅 -1	住吉地区 都市再生推進事業	地域生活基盤施設	市	長崎市	地区面積A=5.5ha ・道路L=415m(施工済) ・公園A=431㎡(施工済) ・広場A=1500㎡(未施工)	H6	H17	9.516	事業採択後 10年経過	0.936	10	—	0.0	8.580	・千歳地区第一 種市街地再開発 事業(昭和62年 ~平成4年)終了 ・住吉3番街区第一 種市街地再開発 事業(平成4年 ~平成8年)終了	・周辺の人口、商業、経済等 の動向において、大きな変動 は見うけられない。 ・チトセビアと北消防署跡地を 結ぶ横断計画は、住吉地区 街並み・まちづくり総合基本設 計において、平面、高架、地 下の3案を提案しているが、 現在の社会状況、交通状況 等を勘案して、平面案とする 予定である。	・当事業の区域 においては、北 消防署跡地が未 施行となっている。 ・地元も当地 の早期着工を望 んでいるが、利 用計画上の地元 要望もあり、協議 会において計画 の調整が必要で ある。	—	4.17	—	・チトセビアと北 消防署跡地を結 ぶ横断計画は総 合基本設計にお いて、平面、高 架、地下の3案を 提案しているが、 交通状況等を勘 案して平面案と する予定である ことから、高架 案、地下案に比 べ事業費はかな り節減できる。	継続	
河川課																							
河川 -1	広域基幹 河川改修事業	中島川	県	長崎市	改修延長 L=1,750m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替、 左岸バイパス等	S63	H18	65.0	再評価後 5年経過	40.5	51.9	99.5	7.0	30.5	市の街路、公園 整備、都市下水 路整備等と調整 を取って進めて いる。	中心市街地として、人口の大き きな変動はない。主 要構造物の実設計に伴い交通 対策等により、事業費が増 加。	一部反対の声は あるが、早期完 成を要望。	3.07	6.63	算出手法の変更 事業費の増等	可能な限りコスト 縮減を図る。 代替案と比較し て計画決定。	継続	H10
河川 -2	広域基幹 河川改修事業	鹿尾川	県	長崎市	改修延長 L=1,400m 下流区 L=1,400m 上流区 L=2,470m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	S49	H19	52.0	再評価後 5年経過	38.1	73.3	89.7	0.3	13.6	特になし	市郊外の既存住宅地で、また る開発計画はないが、道路整 備と合わせて、人口増加の傾 向にある。	早期完成を要 望。	1.25	1.73	算出手法の変更等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダムが整 備済みで代替案 はなし。	継続	H10

河川 -3	広域基幹 河川改修事業	川棚川	県	川棚町 波佐見町	改修延長 本川 L=15,990m 5支川(計) L= 8,300m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 築堤、護岸整備、橋梁架替、 堰改築等	S33 H16 132.0 S33 H17 136.0	再評価後 5年経過	133.0	96.4	94.3	0.1	2.9	石木ダムと一体 となった計画で 実施。護岸整備等の町 事業は完成。	主たる開発計画もなく、人口 の変動も少ない。 生態系に配慮した「水辺の楽 校」整備等により、事業費が 増加。	早期完成を要 望。	4.36	2.73	算出手法の変更 事業費の増等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダムとの 総合的計画で代替 案と比較して決定。	継続	H10
河川 -4	広域基幹 河川改修事業	佐々川	県	佐々町 吉井町	改修延長 L=6,230m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 築堤、護岸整備、橋梁架替、 堰改築等	S36 H15 69.1 S36 H20 69.1	再評価後 5年経過	61.6	89.1	97.6	0.1	7.4	町の「桜づつみ 整備事業」は完成。	佐世保市のベットタウンとし て、人口増加の傾向にあり、 民間による開発も行われている。	早期完成を要 望。	9.49	12.23	算出手法の変更等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -5	統合河川整備事業	三重川	県	長崎市	改修延長 L=760m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	S57 H15 12.2 S57 H21 12.2	再評価後 5年経過	8.7	71.3	93.8	0.0	3.5	-	主たる開発計画はないが、道 路整備が進められているの で、今後、人口増加が見込ま れる。	早期完成を要 望。	1.47	1.35	算出手法の変更等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -6	統合河川整備事業	時津川	県	時津町	改修延長 L=940m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	S63 H16 29.3 S63 H21 37.0	再評価後 5年経過	24.2	65.4	77.4	3.6	9.2	-	区画整理事業が完成し、人口 増加の傾向にある。 軟弱地盤対策の増により、事 業費が増加。	早期完成を要 望。	2.36	11.57	算出手法の変 更 増等 事業費の	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -7	統合河川整備事業	高田川	県	長与町	改修延長 L=1,460m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	H6 H25 35.0	事業採択後 10年経過	11.7	33.4	61.8	1.2	22.1	街路整備と調整 を取って進めて いる。	長と町内の周辺化と合わせ、 人口は増加の傾向にある。	早期完成を要 望。	-	5.71	採択時、算出なし	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -8	統合河川整備事業	大明寺川	県	西彼町	改修延長 L=1,800m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 築堤、護岸整備、橋梁架替等	S54 H18 23.6 S54 H20 23.6	再評価後 5年経過	17.1	72.5	90.0	0.0	6.5	周辺の圍場整備 事業は完成。	主たる開発計画もなく、人口 の変動も少ない。	早期完成を要 望。	1.56	1.49	算出手法の変更等	可能な限りコスト 縮減を図る。 圍場整備等と調 整を取った計画 で、代替案はなし。	継続	H10
河川 -9	統合河川整備事業	今村川	県	諫早市 大村市	改修延長 今村川 L=2,780m 真崎川 L=2,040m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 築堤、護岸整備、橋梁架替、 堰改築等	H1 H16 46.7 H1 H16 49.2	再評価後 5年経過	46.6	86.9	99.1	1.8	0.8	諫早市の「西部 団地開発」等と 調整を取って進 めている。	宅地化が徐々に進んでおり、 真崎川上流では、「諫早西部 団地開発」が進んで いる。 掘削土砂量の増等により、事 業費が増加。	早期完成を要 望。	3.26	1.32	算出手法の変更、 事業量の増等	可能な限りコスト 縮減を図る。 関連事業と調整 を取った計画で 、代替案はなし。	継続	H10
河川 -10	統合河川整備事業	仁反田川	県	森山町	改修延長 L=900m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 築堤、護岸整備、橋梁架替、 水門(樋門)改築等	S58 H17 16.0 S58 H22 30.0	再評価後 5年経過	14.0	46.7	100.0	4.5	11.5	諫早調整地流入 河川として、調整 地と計画の整合 を取っている。	町の中心部で、主たる開発計 画はないが、人口の変動は少 ない。 軟弱地盤対策の増等により、 事業費が増加。	早期完成を要 望。	1.20	1.12	算出手法の変更、 事業量の増等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -11	統合河川整備事業	須山川	県	西有家町	改修延長 L=1,300m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	S53 H19 18.5 S53 H21 22.0	再評価後 5年経過	11.1	50.5	80.0	0.2	10.7	土地区画整理事 業は完成。	主たる開発計画もなく、人口 の変動も少ない。 軟弱地盤対策等により、事業 費が増加。	早期完成を要 望。	2.98	6.79	算出手法の変更、 事業量の増等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -12	統合河川整備事業	佐世保川	県	佐世保市	改修延長 L=3,130m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	S44 H15 33.0 S44 H18 33.0	再評価後 5年経過	27.0	81.7	80.0	1.2	4.8	市の下水道整備 等と調整を図り 、実施している。	中心市街地として、主たる開 発計画はなく、人口の大きな 変動はない。	早期完成を要 望。	2.40	11.51	算出手法の変更等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダム適地 がないなど、比 較して決定。	継続	H10
河川 -13	統合河川整備事業	日宇川	県	佐世保市	改修延長 L=2,002m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替等	S42 H18 25.0 S42 H23 25.0	再評価後 5年経過	13.9	55.6	73.1	0.0	11.1	-	中心市街地として、主たる開 発計画はなく、人口の大きな 変動はない。	早期完成を要 望。	4.83	13.04	算出手法の変更等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流にダムが整 備済みで代替案 はなし。	継続	H10
河川 -14	統合河川整備事業	佐護川	県	上県町	改修延長 L=3,480m 河道拡幅に伴う、河床掘削、 護岸整備、橋梁架替、堰改築等	S59 H15 28.4 S59 H25 38.0	再評価後 5年経過	26.9	70.8	29.4	1.1	10.0	-	主たる開発計画もなく、人口 の変動も少ない。 実施に伴い、仮締切や残土 処理等の費用増により、事業 費が増加。	早期完成を要 望。	1.13	2.59	算出手法の変更、 事業量の増等	可能な限りコスト 縮減を図る。 上流ダム案と比 較して決定。	継続	H10

河川 -15	川棚川河川総合開発事業	石木ダム	県	川棚町	複合ダム (重力式コンクリートロックアップル) H=58.5m V=299,000m3	S48 H20 160	再評価後 5年経過	76.9	26	69.7	11.9	208.2	利水事業(佐世保市)は、第9期拡張事業を実施中である。	佐世保市は、現状の水需要上、ハズレホスへの給水上限量を定めている。川棚町は人口が増加傾向にあり洪水被害ポテンシャルは確実に増大している。	全般的にダム建設促進を望んでいる。反対派からの補償契約が図られており今後とも粘り強く交渉を行っていく。	1.98	1.18	H13事業費改定算出方法の変更等	代替案(引き堤案)は不経済。可能性なし。	継続	H10	
河川 -16	長崎水害緊急ダム事業		県	長崎市 大瀬戸町	新設5ダム 既設改良2ダム	S58 H22 775	再評価後 5年経過	448.3	57.8	65	18.0	308.7	長崎市上水道統合整備事業	大瀬戸町議会は雪浦第2ダム建設について河川整備基本方針提示後に判断する予定である。	雪浦第2ダムについては、ダム反対を主張する数団体があるが、自立した動きはない。	1.30	1.89	算出手法の変更等	代替案(引き堤案)は不経済。可能性なし。	継続	H10	
	河-16-1	本河内ダム	県	長崎市	重力式コンクリートダム 高部ダムH=28.2mV=44,000m3 低部ダムH=27.0mV=18,800m3	S58 H21 149.7	再評価後 5年経過	57.0	38.1	39	17.0	75.7					-	-	事業全体で評価している。	事業全体で評価している。	継続	
	河-16-2	西山ダム	県	長崎市	重力式コンクリートダム H=40.0m V=85,000m3	S58 H11 93.3	H11完了	93.3	100.0	100	0.0	0.0					-	-	事業全体で評価している。	事業全体で評価している。	H11完了	
	河-16-3	浦上ダム	県	長崎市	重力式コンクリートダム H=21.0m V=6,500m3	S58 H22 36.5	再評価後 5年経過	2.3	6.3	0	0.0	34.2					-	-	事業全体で評価している。	事業全体で評価している。	継続	
	河-16-4	中尾ダム	県	長崎市	重力式コンクリートダム H=40.0m V=84,700m3	S58 H12 272.9	H12完了	272.9	100.0	100	0.0	0.0					-	-	事業全体で評価している。	事業全体で評価している。	H12完了	
	河-16-5	雪浦第2ダム	県	大瀬戸町	重力式コンクリートダム 雪浦第2ダム H=72.0mV=233,000m3 雪浦ダム H=44.0mV=75,400m3	S58 H22 222.6	再評価後 5年経過	22.8	10.2	0	1.0	198.8					-	-	事業全体で評価している。	事業全体で評価している。	継続	
河川 -17	村松川河川総合開発事業	村松ダム	県	琴海町	重力式コンクリートダム H=45.1m V=67,000m3	H5 H23 85 H5 H23 71	再評価後 5年経過	5.0	7.0	0	0.2	65.9	長崎県南部広域水道企業団水道用水供給事業・本明川ダム	村松ダムから主に給水を予定している時津町・長与町においては人口増加が著しく、緊急的な水資源確保が急がれる。	早期完成を望んでいる。	1.10	1.50	算出手法の変更等	代替案(引き堤案)は不経済。可能性なし。	継続	H10	
河川 -18	都市基盤河川改修事業	江川川	市	長崎市	改修延長 L=2,530m 河道拡幅に伴う、河床掘削、護岸整備、橋梁架替等	S56 H18 28.0 S56 H25 31.6	再評価後 5年経過	22.2	70.3	74.3	0.5	8.9	県の国道改修事業等と調整を取って進めている。	主たる開発計画はないが、国道改修等により、人口増加の傾向にある。	早期完成を要望。	5.70	3.70	算出手法の変更、事業量の増等	可能な限りコスト削減を図る。上流にダム適地がないなど、比較して決定。	継続	H10	
砂防課																						
砂防-1	地すべり対策事業	白井岳	県	松浦市	集水井 8基 集水ポーリング 113本 横ポーリング 86本 杭打ち 216本	S57 H20 9.0	再評価後 5年経過	6.1	68	81	0.4	2.5	-	当地区は地すべり末端部に二級河川調川川が流れ、下流には住宅地が広がっており保全本効果が高い。現在は対策工が完了したブロックにおいては地すべりの動きは沈静化している。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる。	4.50	2.40	算出手法の変更等	-	継続	H10	

砂防-2	地すべり対策事業	腰差	県	松浦市	集水井 6基 集水ボーリング 84本 杭打ち 521本	H1	H30	20.3	再評価後 5年経過	10.1	38	93	0.4	16.1	-	当地区は抑制工が全ブロックに渡りほぼ完了し、地すべり活動は小康状態になってはいるが、国道・河川・鉄道等の公共施設や人家も多く、抑止工の早急な完成が望まれている。事業費及び数量増については平成7年度の災関事業費分を追加計上したため、また、杭打ちの本数減についてはAブロックの対策工の見直しによる。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	1.70	1.14	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 15基 集水ボーリング 225本 横ボーリング 13本 杭打ち 447本	H1	H30	26.6															
砂防-3	地すべり対策事業	里	県	松浦市	集水井 8基 集水ボーリング 159本 横ボーリング 95本 杭打ち 376本 陸道工 1坑	S56	H17	7.0	再評価後 5年経過	7.0	65	55	0.5	3.3	土地区画整理事業による宅地開発の進展	松浦市の土地区画整理事業に伴う宅地造成により、保全対象人家が増加しており、以前より増して早期対策工の完了が望まれている。事業費増については観測の結果、Cブロックの抑制効果を高めるために集水井、集水brを追加したことによる。また、増工に伴い工期が延長になった。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	7.20	2.56	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 9基 集水ボーリング 165本 横ボーリング 104本 杭打ち 110本 陸道工 1坑	S56	H22	10.7															
砂防-4	地すべり対策事業	高野	県	松浦市	集水井 6基 集水ボーリング 101本 横ボーリング 80本 杭打ち 386本	S63	H20	13.5	再評価後 5年経過	6.9	51	95	0.5	6.1	-	地すべり末端部付近において宅地開発が進んでいるため、保全人家が増加しており、早期対策工の完成が望まれている。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	4.90	12.78	算出手法の変更等	-	継続	H10
砂防-5	地すべり対策事業	大屋	県	鹿町町	集水井 5基 集水ボーリング 39本 横ボーリング 115本 杭打ち 218本 アンカー工 320本	S49	H19	11.4	再評価後 5年経過	11.7	81	81	0.4	2.5	-	当地区の地すべりは急傾斜的要素が強く、地すべり末端部は崖に近接した人家が連なり、地すべり活動が活発化した場合は、人命に大きな被害を与えるため、抑止工の早期完成が望まれている。事業費及び数量増については平成5年度災関事業費分を前回の再評価時には未計上であったので今回新たに追加計上したことによる。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	5.60	3.71	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 6基 集水ボーリング 95本 横ボーリング 116本 杭打ち 196本 アンカー工 450本	S49	H19	14.5															
砂防-6	地すべり対策事業	園田	県	長崎市	集水井 3基 横ボーリング 110本 杭打ち 202本	S60	H15	8.0	再評価後 5年経過	9.4	93	100	0.2	0.5	-	一つのブロックを除いて他ブロックにおいては抑制・抑止工が完了し効果を発現している状況にあり、残ブロックの抑止工を完了させ、H16完成を目指す。事業費の増については、現在施工中のⅢブロックの杭長及び規格の変更により増額となった。また、これに伴い完成が1年延長になった。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	1.20	1.03	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 3基 横ボーリング 79本 杭打ち 186本	S60	H16	10.1															
砂防-7	地すべり対策事業	野崎	県	佐世保市	集水井 1基 集水ボーリング 20本 横ボーリング 67本 杭打ち 440本	S60	H13	6.4	再評価後 5年経過	7.0	89	95	0.3	0.6	-	抑止工まで完了したブロックについては地すべり活動は沈静化しているが、抑止未施工ブロックは若干の変動が確認されており、抑止工の早期完成が望まれている。事業費の増については、新たな対策ブロック(Ⅳ下部ブロック)の追加による。また、これに伴い完成が2年延長になった。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	3.50	2.93	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 3基 集水ボーリング 40本 横ボーリング 122本 杭打ち 490本	S60	H16	7.9															

砂防-8	地すべり対策事業	大崎	県	長崎市	集水井 1基 集水ボーリング 50本 横ボーリング 147本 アンカー工 198本	S60	H14	6.2	再評価後 5年経過	5.6	92	100	0.3	0.2	-	全ブロックにわたり、ほぼ抑止工まで完了し、地すべり活動は停止状態にみかずにいる。現在は最後のブロックの抑制・抑止工を実施中であり、H16完了を目指す。完成工期が1年延長になった理由は、B、Cブロックの対策工を検討するための観測に時間を要したことによる。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	3.10	2.36	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 1基 集水ボーリング 50本 横ボーリング 132本 アンカー工 198本	S60	H16	6.1															
砂防-9	地すべり対策事業	飛島	県	松浦市	集水井 1基 集水ボーリング 55本 横ボーリング 89本 杭打ち 138本	S61	H17	9.0	再評価後 5年経過	8.4	73	71	0.4	2.7	飛島漁港関連施設が概成	島の社会・経済の中心地を保全し事業効果も非常に高く、島民も地すべり対策工事の早期完成を願っている。II、IIIブロックのすべり面が観測の結果、当初想定していた深度よりもさらに深い位置にあったため抑制・抑止工の費用が増大したことにより完成工期が延長になった。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	1.90	1.75	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 4基 集水ボーリング 55本 横ボーリング 97本 杭打ち 209本	S61	H21	11.5															
砂防-10	地すべり対策事業	松島外平	県	大瀬戸町	集水井 8基 集水ボーリング 198本 横ボーリング 37本 杭打ち 115本	S61	H17	7.3	再評価後 5年経過	6.8	73	73	0.3	2.2	-	島民の重要な生活道路である県道や民家を保全しており、住民も対策工の早期完成を強く望んでいる。事業費の増については、観測の結果、D、Eブロックの集水井を4基追加したことによる。	地すべり対策工事の早急な完成を望んでいる	1.30	1.51	算出手法の変更等	-	継続	H10
					集水井 12基 集水ボーリング 242本 横ボーリング 37本 杭打ち 115本	S61	H17	9.4															